

イルカの骨 見つけたよ

白浜で自然観察の児童ら

白浜町臨海の番所崎の浜で19日、自然観察教室を受講中の同町内の児童がほぼ完全な状態のイルカと見られる骨を発見した。京都大学瀬戸臨海実験所が把握している記録では、これまでイルカやクジラが迷い込んだり死体が漂着したことはあるが、全身の骨が発見され

たのは初めてという。

発見したのは、南白浜小学校3年生の林孝弥君(8)。同実験所の久保田信・助教授(51)の指導で浜の自然観察を始め、約3歳の弟を

京大臨海実験所「完全な形珍しい」

骨は、アゴを砂から出すように埋まっていた。まだ歯が数本ついている(19日、白浜町臨海番所崎で)



拾った。「何か変わったものがないか探していて見つけた。最初は木に犬の歯がついているのだと

思った」と林君。同助教授から「イルカの歯かも

拾った」と林君。同助教授は「何か変わったものがないか探していて見つけた。最初は木に犬の歯がついているのだと

思った」と林君。同助教授は「何か変わったものがないか探していて見つけた。最初は木に犬の歯がついているのだと

思った」と林君。同助教授は「何か変わったものがないか探していて見つけた。最初は木に犬の歯がついているのだと

思った」と林君。同助教授は「何か変わったものがないか探していて見つけた。最初は木に犬の歯がついているのだと



イルカの骨が見つかった浜で、自然観察をする児童ら(19日、白浜町臨海の番所崎の浜で)

詳しい調査を進める予定。

自然観察教室は、町内の小学生を対象に白浜町立児童館(溝端雅芳館長)が今年6月から始めた。中学生もサポーターとして参加し、これまで昆虫の観察などを行っている。今後、森や川で動植物の観察を通じて子どもに環境について考えてもらう。

この日はクラゲなどを観察しようと、約55人が参加した。溝端館長は骨の発見について「子どもたちの夏休みのいい思い出になった」と喜んでいました。